

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
B-141	24-415	京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座 鶴身孝介 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター 松下幸生
題名 (原題/訳)		
Neural correlates of proactive avoidance deficits and alcohol use motives in problem drinking 問題飲酒における能動的回避障害の神経基盤とアルコール使用動機		
執筆者		
Thang M Le, Takeyuki Oba, Luke Couch, Lauren McInerney, Chiang-Shan R Li		
掲載誌		
Transl Psychiatry. 2024 Aug 21;14(1):336. doi: 10.1038/s41398-024-03039-y.		
キーワード		PMID
アルコール、積極的回避、線条体		39168986
要旨		
<p>目的: 問題飲酒を有する者では障害されているように見える積極的回避とその神経基盤を調べること</p> <p>方法: 問題飲酒者 41 名と社会飲酒者 41 名に対し、MRI 内にて痛みを伴う結果を回避するプロアクティブ回避を含む確率的学習 Go/noGo 課題を実施した。</p> <p>結果: 問題飲酒者の学習速度とパフォーマンスの正確性に積極的な回避の障害が見られ、いずれもアルコール使用量の増加と関連していた。問題飲酒者グループでは、飲酒の動機としてのネガティブな感情は、積極的な回避中の右前部島皮質の活性低下を予測した。対照的に、身体的苦痛を動機とする飲酒では、右被殻の反応が低下した。これらの領域の活性化、および体性運動野との機能的接続も、飲酒の程度と負の相関、および積極的な回避のパフォーマンスと正の相関を示した。パスモデリングにより、身体的苦痛と負の感情が、積極的な回避の神経および行動の測定値に影響を与える経路がさらに明らかになった。</p> <p>結論: アルコール乱用における積極的な回避の障害に関する実験的証拠が得られ、その神経基盤と飲酒行動との関連性が確立された。</p>		